

総括制御式ディーゼル動車	2編成
〔タルゴ〕	20 "
客 車	3,545 両
貨 車	78,139

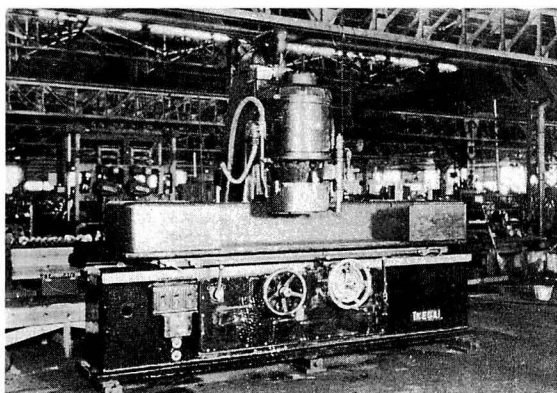
スペイン国鉄の線路は、首都マドリードを中心として国内の主要都市に通じ、かつ主要都市を相互に連絡している。代表的旅客列車としては、マドリードと西・仏国境のアンダイエとの間(復路はイルン発車)に〔タルゴ〕(Talgo)および〔スレックスプレソ〕(Surexpresso)、マドリードとバルセロナとの間には〔タフ〕(Taf)が運転されている。タルゴは軽量の連節式列車で一週に4回運転され、マドリード＝アンダイエ間640kmを8時間45分で走行する。

スペインにはスペイン国鉄のほか30数社の民間鉄道会社があり、その営業キロの合計は4,100km以上に達している。軌間は大部分のものが1.0m軌間である。

スペイン国有鉄道本庁所在地 Estación Principe Pia, Madrid

参考文献 Tothill Press Ltd. 発行 Directory of Railway Officials & Year Book 1953—54. Henry Sampson 編 World Railways 1954—55. (増井 肇)

すべりぼうけんさくばん 滑り棒研削盤 (英) guide bar grinder 蒸気機関車部品の滑り棒の研削仕上用平面研削盤(写真)である。滑り棒(図)は断面がI型で、この四面でクロス



滑り棒研削盤

ヘッドを案内するため、次第に摩耗し変形する。したがって本機により四面を精確に研削修正するものである。といし軸は電動機軸と同一のたて型で、その下部にセグメント式といし(といし片を組立てて一体としたもの)を取付け回転し、加工物を取付けるテーブルは電動機と駆動歯車装置によって左右往復運動をし、両運動によって平面研削加工が行われるといし軸は上下方向に微動してといしに切込み運動を行わせ、その操作は前面の右ハンドルによる。左ハンドルは手動によりテーブルを動かすものである。セグメントといしによるこの研削方式は重研削が可能で、加工能率が大きい。研削しうる長さは1,700mm 幅は400mmで自重8tである。(山本 肇)

スラック (英) slack 鉄道車両は少なくとも二車軸以上の車輪上に装置されているから、曲線軌道を通過するとき、軌間に余裕がなかったならば、平滑に走行しないで前方外側の車輪と、後方内側の車輪のフランジは軌条を圧迫して、これを拡げよう

とし、したがって軌条およびフランジの摩耗をいちじるしく速めることとなる。ゆえに曲線軌道では、当初軌間を幾分拡げて、車輪の運転に対し余裕をもたせる必要がある。この余裕のことで拡度ともいう。車体に固定された車軸間の距離が大なるにしたがい、あるいは曲線の半径が小なるにしたがい、増大する必要がある。しかしあまり増すと車輪が脱線するおそれを生ずるから、運転車両の状態および線路状態に応じ、一定の制限がある。

国鉄では、だいたい半径600m以下の曲線には下表によりスラックを付することとし、その最大を30mmに限定している。スラック表は、つぎの2つの算式の与える値の中間の値を採用して定めたものである。

$$\text{公 式 (1)} \quad S = \frac{6000}{R} - 5$$

$$\text{公 式 (2)} \quad S = \frac{5300}{R} - 10$$

S=スラック(mm) R=曲線半径(m)

曲 線 の 半 径	スラックの寸法	軌道整備心得の定め
170m 未満	30mm	半径600m以下の曲線には左表によりて〔スラック〕を付すべし。ただし600mをこゆる曲線といえども、必要ありと認むるときは5mmの〔スラック〕を付することを得。
170m 以上 200m 未満	25 "	
200 " 240 "	20 "	
240 " 320 "	15 "	
320 " 440 "	10 "	
440 " 600m まで	5 "	

上記スラック量についての最近の傾向は、スラックの過大なものは決して良好な結果を生じないことを認め、車両の動揺を軽減し、軌道の保守を容易にするために次第にスラックを縮少した方がよいとの意見がある。(山本 浩)

スラック・イン (英) slack in 列車を組成する各車両間の連結器ばねが圧縮の状態にあるとき、これをスラック・インと称し、引張の状態にあるときをスラック・アウト(slack out)と称している。スラック・インの状態で列車が停車すると、引出しは容易であるが、発車の際に衝動を生じやすい。またスラック・アウトの状態で停車したときは、発車の際引出しに困難することがある。(井上末次郎)

ずり 礫 (英) muck 隧道語で坑内で掘さくされた岩石土砂の総称。(松島 甫)

スリップ (英) slip 動輪の回転が動力車の進行に伴わず、急速に回転する現象をいい、動輪の周囲に現われる引張力が、粘着力よりも大きくなったとき起るものである。一般には空転といっている。(井上末次郎)

スリップスイッチ (英) slip switch 渡り付交差または渡り線付交差ともいう。ダイヤモンドクロッシングに渡り線を付けたもの。ダブル・スリップスイッチとシングル・スリップスイッチとがある。(木下勝蔵)

スリートジャンプ (英) sleet jump 電線に付着した雪や氷が風圧振動または温度上昇により脱落するときに、電線の荷重が急に軽くなるので、それを支持していた力が電線を持ち上げる力に働いて、電線が跳躍する現象をいう。

気温の比較的高い初冬や晩冬に湿気の多い雪が電線上面に積り、ある量に達すると自重と電線近くの水分とによって、この積雪が半回転しふたたび積雪し、次第にその太さを増して数百mmにも成長することがある。この比重は0.15～0.4くらいである。気温の低い場合には雪の微細な結晶が風に吹き着けられて、電線のより線の素線間の細隙にたまり、次第にこれが成長すると自重により下向に回転し、ふたたび雪が吹きつけられて